

### 3 平成 19 年度視覚障害歩行訓練専門職認定試験の実施結果及び平成 20 年度試験の実施予定について

学院視覚障害学科 野口 忠則、小林 章、松崎 純子  
特定非営利活動法人 Tokyo Lighthouse 清水 美知子

#### 1. 平成 19 年度試験実施に至る経緯、試験概要及び結果

視覚障害者を対象として、従来「生活訓練」と呼ばれてきた、障害者自立支援法においては自立訓練サービスを提供する専門職である「視覚障害生活訓練専門職」について、当該専門職従事者の専門性の担保やその維持向上、必要となる知識及び技術の客観的な検証等が全く不十分であるという当該専門職を取り巻く現状を踏まえ、当学科では、養成課程として検討し得る課題の一つとして、現時点では存在していない資格認定システムの構築への寄与を検討してきた。

その具体的な取り組みとして、海外の資格認定システムを研究し、海外での当該専門職の専門領域ごとに「認定試験」を実施している状況を参考にし、視覚障害者の生活訓練の中でもより専門的な知識や技術が必要とされる「歩行訓練」について、平成 19 年度より試験的に資格認定試験（「視覚障害歩行訓練専門職認定試験」）を実施した（試験概要については表 1～表 3 を参照）。

実施結果としては、受験者 20 名に対し合格者 2 名（合格率 10%）、平均点は 128.3 点（正答率約 65%）で、科目別では「歩行技術の理論と教授法に関する知識」（以下、「歩行」）が 79.6 点（同約 65%）、「視覚障害リハビリテーションに関する知識」（以下、「視覚リハ」）が 48.7 点（同約 60%）であった。特徴としては、6 割以上という各科目の基準に達したが、7 割以上という合計点の基準に達しなかった者や、「視覚リハ」の科目で 6 割以上の基準に達しなかった卒業生が多かったこと、平均点では各科目、合計共に卒業生と卒業見込者の間に大きな差が無かったこと等が挙げられた。

#### 2. 平成 19 年度試験結果から導き出された課題と平成 20 年度試験における変更点

試験結果を踏まえ、次回試験における検討課題としては、「視覚リハ」の位置づけ、「歩行」における事例問題等の出題の必要性、試験時間と問題数の配分等、中長期的な課題としては、合格者に求める水準の設定の検討、実際の現場の観点の試験問題への反映、当学科での学習に対する最終評価を目的とする試験から本来の意味での資格認定試験への発展の必要性等が挙げられた。

上記の課題について整理検討し、平成 20 年度試験（平成 21 年 2 月末実施予定）において、①出題基準の改定、②「視覚リハ」の問題数削減、③認定基準の引き下げ、④試験時間の変更、等を行うこととした。特に①については、「歩行」ではより現場で必要とされる実践力が問えるような問題（事例問題、映像問題等）を多く採用することとし、「視覚リハ」では昨年度の基準と比べ、歩行訓練により関連している項目や生活訓練のベースとなる基礎知識としてより必要な項目を抽出、再整理して、それらを基準とした。また③については、「各科目 6 割以上」の基準は維持しつつ、全体の「7 割以上」の正答から「6 割 5 分以上」に引き下げることにした（表 3～表 5 参照）。

#### 3. 望まれる認定試験の将来像

将来的な展望としては、今後も当該試験を継続実施し、資格認定システムとしての成熟度を高め、国家資格でない限り、認定機関（試験実施主体）として本来望ましい職能団体等へ当該システムを譲渡し、受験対象者を視覚障害者の生活訓練に携わる者全てとすること、等が望まれる。

※以下の資料中の項目について

- ・「大項目」：当該試験において問われる知識である試験科目の全体の範囲を示す、当該知識をいくつかの類型に分類したものであり、その構成要素である中項目を束ねた見出し
- ・「中項目」：大項目として分類された各知識について教授のあった、視覚障害学科における科目
- ・「小項目」：試験の出題内容となる事項（基本的には、試験問題はこの範囲から出題されることとなる。なお、小項目は、出題基準として、試験問題の出題範囲という観点から配列されているため、学問的な分類体系とは必ずしも一致しない）

(表1)

### 平成19年度「視覚障害歩行訓練専門職認定試験」 問題数及び出題割合

| 試験科目                     | 大項目                | 中項目                        | 問題数 | 出題割合       |
|--------------------------|--------------------|----------------------------|-----|------------|
| 歩行技術の理論と教授法に関する知識        | —                  | 歩行技術の理論と教授法                | 90  | 120<br>60% |
|                          |                    | 歩行技術の理論と教授法演習              |     |            |
|                          |                    | ロービジョンの理論と教授法              | 20  |            |
|                          |                    | ロービジョンの理論と教授法演習            |     |            |
|                          |                    | 生活訓練評価法                    | 10  |            |
| 視覚障害リハビリテーションに関する知識      | 視覚障害に関する医学的知識      | 眼の構造と機能                    | 6   | 14<br>7%   |
|                          |                    | 視覚障害リハビリテーション原論1(眼科学)      | 4   |            |
|                          |                    | 糖尿病内科                      | 2   |            |
|                          |                    | 老年病医学                      | 2   |            |
|                          | 知覚運動機能に関する知識       | 視覚障害リハビリテーション原論5(感覚情報処理)   | 8   | 16<br>8%   |
|                          |                    | 運動学                        | 4   |            |
|                          |                    | 知覚心理学                      | 4   |            |
|                          | 視覚障害者の心理に関する知識     | 臨床心理学                      | 4   | 8<br>4%    |
|                          |                    | 視覚障害リハビリテーション原論2(心理的様相)    | 2   |            |
|                          |                    | カウンセリング                    | 2   |            |
|                          | 人の成長と発達に関する知識      | 学習心理学                      | 6   | 14<br>7%   |
|                          |                    | 発達心理学                      | 4   |            |
|                          |                    | 視覚障害リハビリテーション原論4(運動コントロール) | 2   |            |
|                          |                    | 老年心理学                      | 2   |            |
|                          | 重複障害に関する知識         | 視覚障害リハビリテーション原論7(重複障害)     | 4   | 8<br>4%    |
|                          |                    | 重複障害の訓練                    | 4   |            |
|                          | リハビリテーション専門職としての知識 | 視覚障害リハビリテーション概論            | 6   | 20<br>10%  |
|                          |                    | 社会福祉概論                     | 6   |            |
|                          |                    | 視覚障害リハビリテーション原論8(糖尿病訓練)    | 2   |            |
|                          |                    | 社会福祉援助技術論                  | 2   |            |
| 視覚障害リハビリテーション原論3(失明統計など) |                    | 2                          |     |            |
| 視覚障害リハビリテーション原論10(盲導犬)   |                    | 2                          |     |            |
| 合 計                      |                    |                            | 200 | 100%       |

(表 2)

## 平成19年度 試験科目別出題基準

### I 歩行技術の理論と教授法に関する知識

| 大項目 | 中項目                              | 小項目  |
|-----|----------------------------------|--|
| -   | 歩行技術の理論と教授法<br>歩行技術の理論と教授法演習     | オリエンテーション<br>手引き歩行<br>防御技能と屋内歩行<br>白杖とその基本操作技能<br>歩車道の区別の無い道路の歩行<br>歩道のある道路の歩行<br>信号機のある交差点の道路横断<br>準繁華街の歩行、繁華街の歩行<br>交通機関の利用(バス、電車等)<br>援助依頼<br>ファミリアリゼーション<br>目的地の発見<br>訓練計画、課題設定<br>指導方法<br>指導上の留意点<br>評価 |
|     | ロービジョンの理論と教授法<br>ロービジョンの理論と教授法演習 | ロービジョンの定義、障害との関係<br>医学的視機能評価<br>フィールドでの視機能評価<br>遠方視訓練<br>視覚的に利用可能な手がかり<br>補助具とその利用   |
|     | 生活訓練評価法                          | 評価方法<br>訓練計画、目標設定<br>初期評価、中期評価、終期評価  |

### II 視覚障害リハビリテーションに関する知識

| 大項目           | 中項目                   | 小項目  |
|---------------|-----------------------|--|
| 視覚障害に関する医学的知識 | 眼の構造と機能               | 眼の構造<br>視力(概念、単位と視力表、検査)<br>調節<br>非正視<br>近視<br>視野とその測定<br>光覚、色覚<br>眼球運動と複視、両眼視 |
|               | 視覚障害リハビリテーション原論1(眼科学) | 結膜、角膜、強膜疾患<br>ぶどう膜、水晶体疾患<br>緑内障、視野<br>網膜疾患<br>視神経疾患、瞳孔、眼窩疾患<br>全身病と眼           |
|               | 糖尿病内科                 | 糖尿病の種類、病態と原因<br>糖尿病の合併症<br>糖尿病の管理  |
|               | 老年病医学                 | 寿命、死亡<br>老化、加齢変化<br>老年期の疾患<br>高齢者リハビリテーション<br>介護予防                             |

| 大項目            | 中項目                      | 小項目  |
|----------------|--------------------------|--|
| 知覚運動機能に関する知識   | 視覚障害リハビリテーション原論5(感覚情報処理) | 神経生理(各感覚共通項目)<br>受容器における刺激のエネルギー変換<br>中枢神経系の感覚機能<br>感覚ニューロンおよびニューロン群の性質と動作<br>体性感覚系: 脊髄、上行路、脳幹<br>視床と大脳皮質の体性感覚<br>感覚系への情報処理の応用<br>視覚情報処理<br>視角と視力<br>屈折と屈折率<br>照度、輝度<br>コントラストとコントラスト感度<br>視角の周波数分析<br>明順応、暗順応<br>触覚情報処理<br>皮膚構造、皮膚感覚受容器<br>触運動知覚<br>触覚を用いた視覚代行<br>聴覚情報処理<br>音の性質<br>聴覚のしくみ<br>音源定位<br>障害物知覚<br>視覚障害者の歩行と聴覚の利用<br>歩行補助装置 |
|                | 運動学                      | 骨、関節、筋肉と運動<br>神経系<br>姿勢、肢位、重心<br>歩行  |
|                | 知覚心理学                    | 知覚と感覚<br>感覚と感覚器<br>色覚<br>全体野、図と地、層化<br>位相条件、図形条件、明るさ条件<br>明暗対比、マッハ現象<br>受容野<br>定位<br>視覚と他の感覚との関連<br>奥行き知覚<br>体制化<br>因果知覚<br>アフォーダンス<br>直接知覚、間接知覚<br>知覚系<br>運動と知覚<br>錯視、錯覚<br>順応水準理論  |
| 視覚障害者の心理に関する知識 | 臨床心理学                    | 臨床心理査定技法<br>知能検査<br>発達検査<br>性格検査<br>その他の検査法<br>臨床心理面接技法<br>精神分析的面接<br>来談者中心療法<br>行動療法<br>その他の療法  |
|                | 視覚障害リハビリテーション原論2(心理的様相)  | 視覚損傷による制限と視覚障害者の基本的ニーズ<br>障害の告知と障害受容<br>訓練効果と不安<br>視覚障害者の心理的特性   |
|                | カウンセリング                  | 福祉現場でのインテーク面接<br>評価方法、記録方法   |

| 大項目           | 中項目                        | 小項目  |
|---------------|----------------------------|--|
| 人の成長と発達に関する知識 | 学習心理学                      | <p>行動主義<br/>好子と嫌子<br/>強化と弱化、分化強化と分化弱化<br/>消去と復帰<br/>シェパング<br/>強化スケジュール<br/>刺激弁別<br/>刺激般化と概念形成<br/>模倣<br/>並立随伴性<br/>刺激反応連鎖と反応率随伴性<br/>レスポント条件付け、オペラント条件付け<br/>価値変容の原理</p> |
|               | 発達心理学                      | <p>発達と環境<br/>感覚の発達<br/>愛着行動<br/>身体・運動機能の発達<br/>言語の発達<br/>感情の発達<br/>知的発達<br/>道徳的判断の発達<br/>アイデンティティ<br/>青年期<br/>成人前期・中年期<br/>老年期</p>                                       |
|               | 視覚障害リハビリテーション原論4(運動コントロール) | <p>感覚知覚システムと運動発達<br/>視覚障害が知覚運動発達に及ぼす影響<br/>知覚運動機能を促進するための生活訓練専門職の役割</p>  |
|               | 老年心理学                      | <p>老年期の心理<br/>高齢者と死<br/>高齢者と生きがい<br/>老年期の身体的・精神的疾患・障害<br/>高齢者の知能<br/>老年期のパーソナリティ<br/>老年期の適応<br/>高齢者と家族</p>   |
| 重複障害に関する知識    | 視覚障害リハビリテーション原論7(重複障害)     | <p>運動機能障害と義肢・装具、車椅子<br/>知的障害<br/>精神障害<br/>高次脳障害<br/>内部障害<br/>聴覚障害<br/>盲ろう</p>  |
|               | 重複障害の訓練                    | <p>視覚障害と肢体不自由<br/>視覚障害と認知障害<br/>視覚障害と健康の問題を持つ障害者<br/>視覚障害と知的障害<br/>視覚障害と聴覚障害<br/>視覚障害とその他の障害</p>   |

| 大項目                | 中項目                      | 小項目   |
|--------------------|--------------------------|---|
| リハビリテーション専門職としての知識 | 視覚障害リハビリテーション概論          | 視覚障害者の定義<br>視覚障害者の実態<br>視覚喪失とリハビリテーション<br>視覚障害リハビリテーションと提供システム<br>視覚障害リハビリテーションと社会福祉施設<br>医療機関における視覚障害リハビリテーション<br>視覚障害者と職業<br>視覚障害者の歴史と今日的課題 |
|                    | 社会福祉概論                   | 社会福祉の理念、歴史、役割<br>社会福祉法制と行財政<br>社会福祉の実施主体<br>社会保障制度<br>公的扶助<br>児童家庭福祉<br>高齢者福祉と介護保険<br>障害者福祉と障害者自立支援法  |
|                    | 視覚障害リハビリテーション原論8(糖尿病訓練)  | 糖尿病と視覚障害<br>糖尿病と自己管理<br>糖尿病と社会復帰  |
|                    | 社会福祉援助技術論                | ケースワーク臨床の特質<br>援助関係の形成と活用<br>逆転移の意識化と自己活用   |
|                    | 視覚障害リハビリテーション原論3(失明原因など) | 視覚障害児・者の実態<br>わが国の視覚障害原因の推移<br>学校、施設、地域における障害原因の推移<br>世界の視覚障害原因の実態と動向<br>視覚障害原因と視覚障害リハビリテーション   |
|                    | 視覚障害リハビリテーション原論10(盲導犬)   | 盲導犬の歴史<br>盲導犬の種類<br>盲導犬の育成・訓練<br>盲導犬による歩行<br>日本における盲導犬の実態   |

(表3)

### 「視覚障害歩行訓練専門職認定試験」の概要（19年度版）

- 受験対象者：  
国立身体障害者リハビリテーションセンター学院視覚障害学科の卒業生  
及び卒業見込者（2年生）
- 試験科目：
  - ・「歩行技術の理論と教授法に関する知識」（筆記）
  - ・「視覚障害リハビリテーションに関する知識」（筆記）
- 問題数：200問（歩行120問、視覚リハ80問）
- 配点：1問1点（200点満点）
- 回答方式：多肢択一式
- 認定基準：140/200以上（7割以上）  
※ただし、両試験科目ともに6割以上の得点を要する
- 試験時間：総計240分（歩行150分、視覚リハ90分）

### 「視覚障害歩行訓練専門職認定試験」の概要（20年度版）

- 受験対象者：  
国立身体障害者リハビリテーションセンター学院視覚障害学科の卒業生  
及び卒業見込者（2年生）
- 試験科目：
  - ・「歩行技術の理論と教授法に関する知識」（筆記）
  - ・「視覚障害リハビリテーションに関する知識」（筆記）
- 問題数：180問（歩行120問、視覚リハ60問）
- 配点：1問1点（180点満点）
- 回答方式：多肢択一式
- 認定基準：117/180以上（6割5分以上）  
※ただし、両試験科目ともに6割以上の得点を要する
- 試験時間：総計240分（歩行160分、視覚リハ80分）

(表4)

## 平成20年度「視覚障害歩行訓練専門職認定試験」問題数及び出題割合

| 試験科目                     | 大項目                | 中項目                        | 問題数 |      | 出題割合 |
|--------------------------|--------------------|----------------------------|-----|------|------|
| 歩行技術の理論と教授法に関する知識        | —                  | 歩行技術の理論と教授法                | 90  | 120  | 67%  |
|                          |                    | 歩行技術の理論と教授法演習              |     |      |      |
|                          |                    | ロービジョンの理論と教授法              | 20  |      |      |
|                          |                    | ロービジョンの理論と教授法演習            |     |      |      |
|                          |                    | 生活訓練評価法                    | 10  |      |      |
| 視覚障害リハビリテーションに関する知識      | 視覚障害に関する医学的知識      | 眼の構造と機能                    | 5   | 10   | 6%   |
|                          |                    | 視覚障害リハビリテーション原論1(眼科学)      | 3   |      |      |
|                          |                    | 糖尿病内科                      | 1   |      |      |
|                          |                    | 老年病医学                      | 1   |      |      |
|                          | 知覚運動機能に関する知識       | 視覚障害リハビリテーション原論5(感覚情報処理)   | 6   | 12   | 7%   |
|                          |                    | 運動学                        | 3   |      |      |
|                          |                    | 知覚心理学                      | 3   |      |      |
|                          | 視覚障害者の心理に関する知識     | 臨床心理学                      | 2   | 6    | 3%   |
|                          |                    | 視覚障害リハビリテーション原論2(心理的様相)    | 2   |      |      |
|                          |                    | カウンセリング                    | 2   |      |      |
|                          | 人の成長と発達に関する知識      | 学習心理学                      | 3   | 10   | 6%   |
|                          |                    | 発達心理学                      | 3   |      |      |
|                          |                    | 視覚障害リハビリテーション原論4(運動コントロール) | 2   |      |      |
|                          |                    | 老年心理学                      | 2   |      |      |
|                          | 重複障害に関する知識         | 視覚障害リハビリテーション原論7(重複障害)     | 4   | 6    | 3%   |
|                          |                    | 重複障害の訓練                    | 2   |      |      |
|                          | リハビリテーション専門職としての知識 | 視覚障害リハビリテーション概論            | 4   | 16   | 9%   |
|                          |                    | 社会福祉概論                     | 4   |      |      |
|                          |                    | 視覚障害リハビリテーション原論8(糖尿病訓練)    | 2   |      |      |
|                          |                    | 社会福祉援助技術論                  | 2   |      |      |
| 視覚障害リハビリテーション原論3(失明統計など) |                    | 2                          |     |      |      |
| 視覚障害リハビリテーション原論10(盲導犬)   |                    | 2                          |     |      |      |
| 合計                       |                    |                            | 180 | 100% |      |

(表 5)

## 平成20年度 試験科目別出題基準

### I 歩行技術の理論と教授法に関する知識

| 大項目 | 中項目                              | 小項目  |
|-----|----------------------------------|--|
|     | 歩行技術の理論と教授法<br>歩行技術の理論と教授法演習     | 人をガイドとして利用する歩行技術<br>道具を使用しない屋内歩行技術<br>ファミリアリゼーション<br>オリエンテーション<br>白杖と単独歩行のための白杖技術<br>歩車道の区別のない道路の歩行<br>歩車道の区別のある道路の歩行<br>信号機のある交差点の横断<br>混雑した地域での歩行<br>交通機関の利用(バス、電車等)<br>情報収集及び他の歩行者等とのコミュニケーション<br>歩行環境、道路環境<br>関係法令、規定<br>訓練計画、課題設定<br>指導方法、指導上の留意点<br>評価 |
|     | ロービジョンの理論と教授法<br>ロービジョンの理論と教授法演習 | ロービジョンの定義<br>原因疾患と機能障害との関係<br>医学的視機能評価<br>ロービジョンの見え方の理解<br>遠方視課題<br>視覚的に利用可能な手がかり<br>補助具とその利用<br>バリアフリーとユニバーサルデザイン   |
|     | 生活訓練評価法                          | 評価方法<br>訓練計画、目標設定<br>初期評価、中期評価、終期評価  |

### II 視覚障害リハビリテーションに関する知識

| 大項目           | 中項目                   | 小項目   |
|---------------|-----------------------|---|
| 視覚障害に関する医学的知識 | 眼の構造と機能               | 眼の構造<br>眼の機能<br>視力、視角<br>視野<br>調節<br>屈折異常<br>両眼視、輻輳<br>光覚、色覚<br>眼球運動<br>遺伝      |
|               | 視覚障害リハビリテーション原論1(眼科学) | 網膜病変<br>視神経・視中枢病変<br>屈折異常・調節異常<br>眼球運動異常・斜視<br>先天眼疾患・眼外傷・外眼部疾患<br>眼科臨床における検査・治療 |
|               | 糖尿病内科                 | 糖尿病の病態、分類と原因<br>糖尿病の症状(合併症含む)<br>糖尿病の検査(判定)と診断<br>糖尿病の治療と管理                     |
|               | 老年病医学                 | 老年期の疾患<br>高齢者リハビリテーション<br>介護予防  |

| 大項目            | 中項目                        | 小項目   |
|----------------|----------------------------|---|
| 知覚運動機能に関する知識   | 視覚障害リハビリテーション原論5(感覚情報処理)   | <p>神経生理(各感覚共通項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>受容器における刺激のエネルギー変換</li> <li>中枢神経系の感覚機能</li> <li>感覚ニューロンおよびニューロン群の性質と動作</li> <li>体性感覚系: 脊髄、上行路、脳幹</li> <li>視床と大脳皮質の体性感覚</li> </ul> <p>視覚情報処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>視角と視力</li> <li>照度、輝度</li> <li>コントラストとコントラスト感度</li> <li>視角の周波数分析</li> <li>明順応、暗順応</li> </ul> <p>触覚情報処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>触覚を用いた視覚代行技術</li> <li>触運動知覚</li> </ul> <p>聴覚情報処理</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音の性質</li> <li>音源定位</li> <li>障害物知覚</li> <li>視覚障害者の歩行と聴覚の利用(歩行補助装置含む)</li> </ul> |
|                | 運動学                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>関節運動とその構造</li> <li>行為、動作、運動</li> <li>歩行</li> </ul>   |
|                | 知覚心理学                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>知覚と感覚、感覚器</li> <li>色覚</li> <li>物体知覚</li> <li>空間知覚</li> <li>大きさと距離の知覚</li> <li>運動の知覚</li> </ul>   |
| 視覚障害者の心理に関する知識 | 臨床心理学                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>心理検査</li> <li>知能検査、発達検査、性格検査、その他の検査方法</li> <li>心理療法の技法</li> <li>精神分析的面接、クライアント中心療法、行動療法、その他の療法</li> <li>様々な心理症状</li> </ul>   |
|                | 視覚障害リハビリテーション原論2(心理的様相)    | <ul style="list-style-type: none"> <li>視覚障害による制限と視覚障害者の基本的ニーズ</li> <li>障害の告知と障害受容</li> <li>訓練と心理的様相</li> <li>視覚障害者の心理的特性</li> </ul>   |
|                | カウンセリング                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>福祉現場でのインテーク面接</li> <li>評価方法、記録方法</li> </ul>  |
| 人の成長と発達に関する知識  | 学習心理学                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>好子と嫌子</li> <li>強化と弱化的、分化強化と分化弱化的</li> <li>消去と復帰</li> <li>強化スケジュール</li> <li>レスポント条件付け、オペラント条件付け</li> </ul>  |
|                | 発達心理学                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>遺伝と環境</li> <li>感覚の発達</li> <li>身体・運動機能の発達</li> <li>知的発達</li> <li>アイデンティティ、パーソナリティ</li> <li>成人期</li> <li>中年期</li> <li>老年期</li> </ul>   |
|                | 視覚障害リハビリテーション原論4(運動コントロール) | <ul style="list-style-type: none"> <li>感覚知覚システムと運動発達</li> <li>視覚障害が知覚運動発達に及ぼす影響</li> <li>知覚運動機能を促進するための生活訓練専門職の役割</li> </ul>  |
|                | 老年心理学                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>加齢に伴う身体機能の変化</li> <li>高齢者の記憶</li> <li>高齢者の知能</li> <li>高齢者のパーソナリティ</li> <li>高齢者の適応</li> <li>老年期の精神障害</li> </ul>   |

| 大項目                | 中項目                      | 小項目   |
|--------------------|--------------------------|---|
| 重複障害に関する知識         | 視覚障害リハビリテーション原論7(重複障害)   | 運動機能障害と義肢・装具、車椅子<br>知的障害<br>精神障害<br>高次脳障害<br>内部障害<br>聴覚障害<br>盲ろう  |
|                    | 重複障害の訓練                  | 視覚障害と肢体不自由<br>視覚障害と認知障害<br>視覚障害と健康的問題を持つ障害者<br>視覚障害と知的障害<br>視覚障害と聴覚障害<br>視覚障害とその他の障害  |
| リハビリテーション専門職としての知識 | 視覚障害リハビリテーション概論          | 視覚障害者の定義<br>視覚障害者の実態<br>視覚喪失とリハビリテーション<br>視覚障害リハビリテーションと提供システム<br>視覚障害リハビリテーションと社会福祉施設<br>医療機関における視覚障害リハビリテーション<br>視覚障害者と職業<br>視覚障害者の歴史と今日的課題 |
|                    | 社会福祉概論                   | 社会保障制度<br>社会福祉各論<br>公的扶助<br>高齢者福祉と介護保険<br>地域福祉<br>障害者福祉<br>障害者の法的定義<br>障害者の実態とニーズ<br>障害者福祉サービスの発展と概要<br>障害者に関連する福祉施策                          |
|                    | 視覚障害リハビリテーション原論8(糖尿病訓練)  | 糖尿病及び網膜症以外の合併症による身体機能低下及び能力障害<br>訓練時における留意点   |
|                    | 社会福祉援助技術論                | ケースワークの定義と関連概念<br>ケースワーク臨床の特質<br>援助関係の形成と活用<br>逆転移の意識化と自己活用   |
|                    | 視覚障害リハビリテーション原論3(失明統計など) | 視覚障害児・者の実態<br>わが国の視覚障害原因の推移<br>学校、施設、地域における障害原因の推移<br>視覚障害原因と視覚障害リハビリテーション  |
|                    | 視覚障害リハビリテーション原論10(盲導犬)   | 盲導犬の種類<br>盲導犬の育成・訓練<br>盲導犬による歩行<br>日本における盲導犬の実態   |